

2 前プランの評価と新プランの視点

(1) 前プランの評価

「社会資本未来プラン」に基づいた、客観的な事業の評価制度により、優先順位が高い箇所から、効果的・効率的な整備を進めるとともに、ハード・ソフト一体となって計画的に事業の進捗に努めた結果、概ね当初の目標を達成することができました。

しかしながら、前プラン策定からの様々な情勢の変化（東日本大震災の発生、局所的豪雨の頻発等）を踏まえ、地域の防災拠点等を守る砂防施設の重要性が高まっていますが、前プランでは、これらを保全する砂防施設について、必ずしも優先的・計画的に整備をすることになっていません。

また、これまでに数多く整備されてきた既存ストック施設の補修について、具体的な計画と整備目標が盛り込まれていません。

【主な成果目標と達成状況】

指 標	実績値 (H23 年度末)	実績値 (H24 年度末)	実績値 (H25 年度末)	目標値 (H25 年度末)
土砂災害から保全される家屋数	約 102,600 戸 43.6(%)	約 103,000 戸 43.8(%)	※約 105,100 戸 44.7(%)	※約 105,100 戸 (44.7%)
土砂災害が発生した地域等の住宅密集地において土砂災害から保全される家屋数(内数)	約 41,300 戸 64.5(%)	約 41,400 戸 64.6(%)	※約 43,200 戸 (67.4%)	※約 43,200 戸 67.4(%)
土砂災害から保全される災害時要援護者関連施設数	375 施設 39.0(%)	382 施設 39.8(%)	※411 施設 42.8(%)	※411 施設 (42.8%)
土砂災害警戒区域等の指定によりソフト対策が充実される家屋数	67,910 戸 24.8(%)	75,871 戸 27.7(%)	約 83,500 戸 30.5(%)	約 83,000 戸 (30.3%)

※ 「完成」及び「継続」箇所数（「完成」箇所に「継続」箇所を加えた数値）

(2) 新プランの主要な視点

前プランの課題を踏まえ、従来の考え方に加え、様々な情勢の変化に伴う昨今の視点を新たに取り入れて、地域防災拠点等についての集中投資（10年マイルストーン）と、施設の老朽化対策の視点を新たに追加します。

視 点	考 え 方
10年マイルストーン 〈新規設定〉	大規模地震発生や集中豪雨により災害が発生した際に重要な役割を担う、地域の防災拠点及び大規模避難所（小・中学校）を保全する箇所について、10年間を目途に整備を行うこととし集中投資を行う。
優先度評価	限られた予算の中で、効果的・効率的な投資とするため、優先度の評価を行い、真に必要な施設についてハード整備を行う。
老朽化対策 〈新規設定〉	既存ストックの機能を最大限に発揮させるため、老朽化対策を盛り込む。
ソフト対策	減災の観点から、ハード整備とあわせてソフト対策の充実を図り、事業効果の一層の発現を図る。

【10年マイルストンの位置づけ】

